

# 庭作りの楽しさ

One Seed 代表 安藤 賢香

ふかふかの土を耕す時の心地よさ。目指す庭の景色を想像する、心が解き放たれた伸びやかな時間。冬の寒さをくぐりぬけて、土から出てきた芽を発見する喜び。庭作りは神様との協同作業であり、生きる喜びを思い起こさせてくれます。庭作りに正解や完成はありません。住む人にとって心地良ければそれで良いのです。

## —適材適所の植物選び—

新しい家やマンション等に引っ越してきた時、ワクワクして、緑や花が傍にある暮らしを夢見ませんでしたか。色々やってみたけれど上手くいかなくて、今では、庭や植物が朽ち果てた後のプランターがストレスになってはいないでしょうか。

### ●植物が上手く育つポイント

植物が上手く育つには、3つのポイントがあります。

- ①植えた環境に合っている（日当たり、風通しなど）
- ②土がふかふかに耕されている
- ③適切な水やり

### ●植物に合った環境づくり

今回は①の「植物が環境に合っている」というテーマでお話いたします。



ギボウシとテッポウユリ

植物にとって、方角で良いとされているのは東向きです。

朝日が当たるところが適した環境といえます。一方、南向きと西向きは、昨今の温暖化の影響により、かなり過酷な環境になってしまうことが多いようです。また、「うちは日が当たらないから」とあきらめている方が多くいらっしゃいますが、実は半日陰に適した植物はたくさんあります。

しかし、方角だけでは環境を判別することができません。なぜなら、特に都会の庭は家などの陰となり、南向きでも日が当たらないケースがたくさんあります。小さな庭で異なる環境条件が存在するのです。「ここは、赤道直下、でも一歩先は北極圏！」という、全く異なる現象が小さな庭で起こります。それに伴い、生育に適する植物も違ってきます。

庭の環境を観察したら、次は何の植物が合うかを考えましょう。そこで大切なのは、「植物の原産地を知る」ということです。昨今は多くの品種改良された植物がありますが、植物は元々のふるさとの環境が好きです。植物のふるさとを知るといことは、その植物の好きな環境を知ることになります。